

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第22週 (5/27-6/2) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		22週	21週	20週	19週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	5/27-6/2	5/20-5/26	5/13-5/19	5/6-5/12	5/20-5/26
			22週	21週	20週	19週	21週
小 児 科	RSウイルス感染症		4 0.22	1 0.06	0 0.00	2 0.11	25 0.19
	咽頭結膜熱	○	25 1.39	15 0.83	8 0.47	14 0.78	75 0.56
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	66 3.67	51 2.83	61 3.59	55 3.06	461 3.41
	感染性胃腸炎		128 7.11	126 7.00	107 6.29	75 4.17	739 5.47
	水痘		6 0.33	8 0.44	5 0.29	4 0.22	82 0.61
	手足口病	○	28 1.56	6 0.33	2 0.12	0 0.00	52 0.39
	伝染性紅斑		9 0.50	22 1.22	16 0.94	10 0.56	136 1.01
	突発性発しん		14 0.78	11 0.61	5 0.29	12 0.67	60 0.44
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	1 0.06	2 0.11	10 0.07
	流行性耳下腺炎		5 0.28	2 0.11	4 0.24	3 0.17	29 0.21
	インフル	インフルエンザ*（高病原性鳥インフルエンザを除く）		18 0.64	13 0.46	17 0.63	9 0.32
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	2 0.40	0 0.00	1 0.20	13 0.37
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	7 0.78

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(15件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	臨床診断	百日咳	男性	10歳代	抗体の検出
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	百日咳	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	百日咳	男性	80歳代	抗体の検出
E型肝炎	男性	30歳代	血清IgA抗体の検出	百日咳	女性	10歳代	抗体の検出
デング熱	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出
劇症型溶血性 レンサ球菌感染	男性	80歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定等	百日咳	女性	40歳代	抗体の検出
				風しん	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出等

・第22週は、結核1件(81)、E型肝炎1件(5)、デング熱1件(2)、劇症型レンサ球菌感染症1件(5)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(9)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(9)、百日咳7件(47)、風しん1件(27)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第22週のコメント

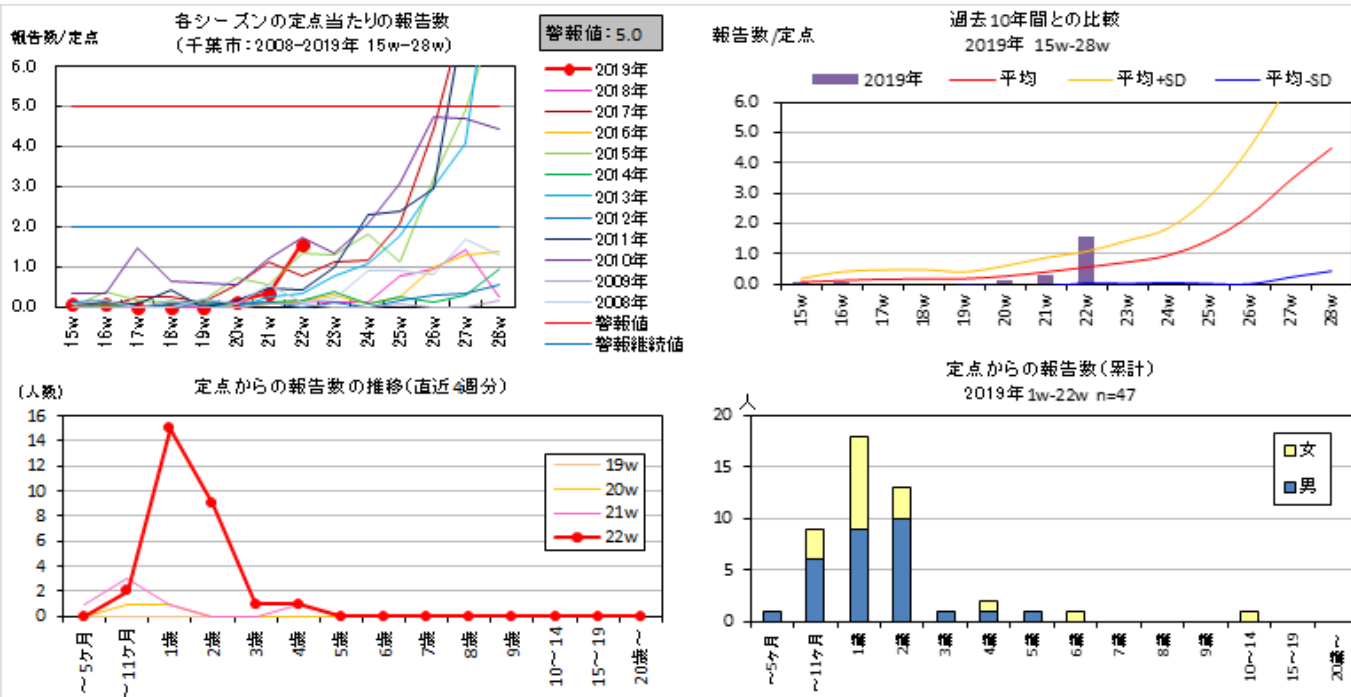
＜手足口病＞前週より増加し1.56となった。過去10年の同時期と比べると多い。

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し1.39となった。過去10年の同時期と比べると最多。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.67となった。過去10年の同時期と比べると多め。

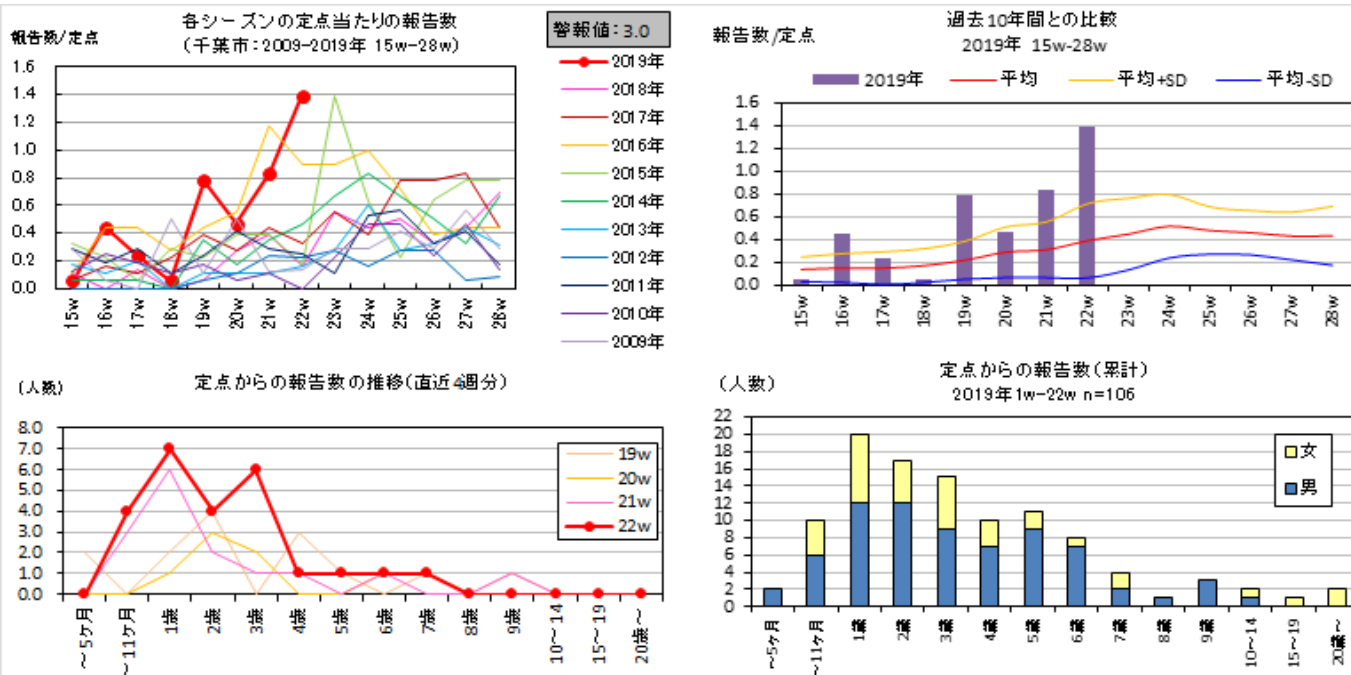
＜手足口病＞

全国レベルの第21週の定点当たりの報告数は1.54で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、鹿児島県、宮崎県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.39で、全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第22週は前週より増加し1.56となり、過去10年の同時期と比べるととても多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(7.67/定点)で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第22週までの累積報告数は47件で、性別では男性が61.7%(29名)、女性が38.3%(18名)となっており、年齢階級別では1歳(38.3%:18名)、2歳(27.7%:13名)、6~11か月(19.1%:9名)の順で多くなっています。



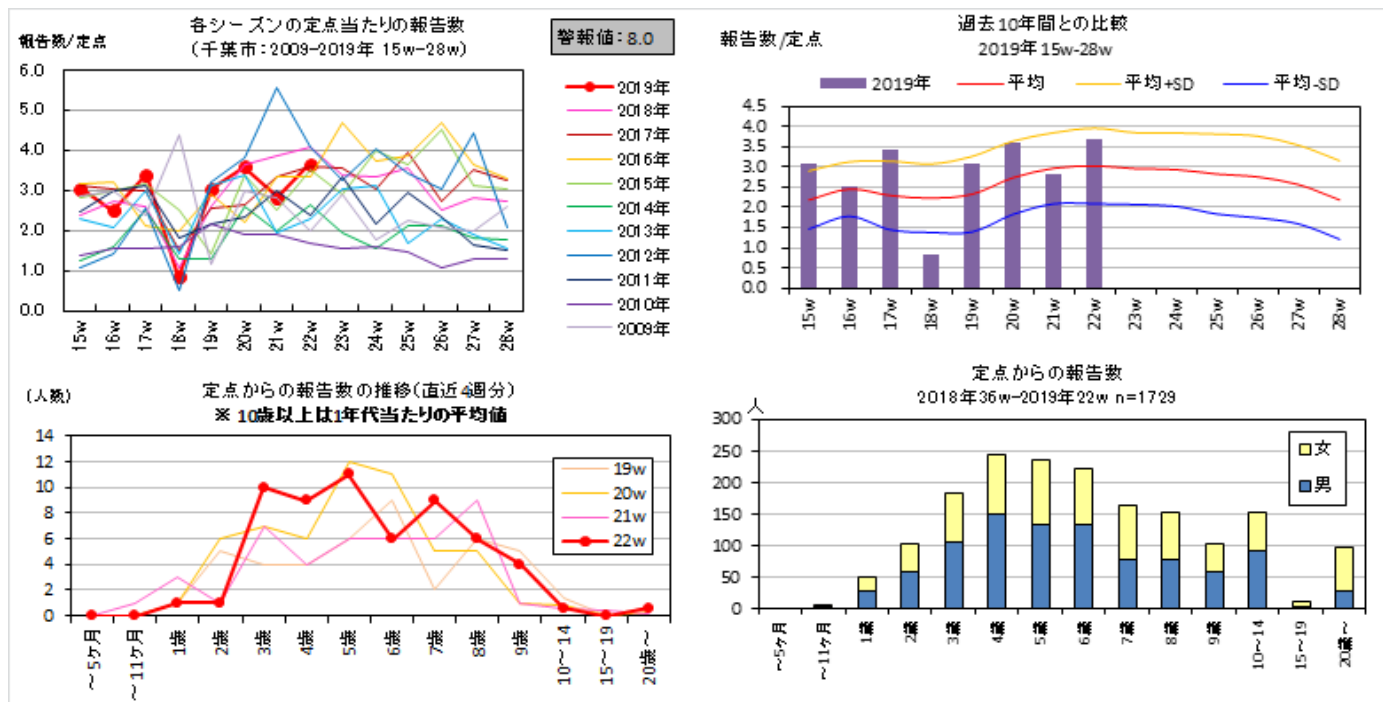
＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第21週の定点当たりの報告数は0.64で、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、鳥取県、新潟県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.56で、全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第22週は前週より増加し1.39となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、若葉区及び美浜区(共に2.0/定点)で最も多く、若葉区で3歳、美浜区で6~11か月で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第22週までの累積報告数は106件で、性別では男性が67.0%(71名)、女性が33.0%(35名)となっており、年齢階級別では1歳(18.9%:20名)、2歳(16.0%:17名)、3歳(14.2%:15名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第21週の定点当たりの報告数は2.66で、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、山形県、新潟県、石川県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は3.41で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第22週は前週より増加し3.67となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(6.25/定点)で最も多く、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第22週までの累積報告数は1729件で、性別では男性が55.2%(954名)、女性が44.8%(775名)となっており、年齢階級別では4歳(14.2%:245名)、5歳(13.6%:236名)、6歳(12.9%:223名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第21週の発生届累積数は1624件で、昨年の同時期の50倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く報告されており、関東地方が多くなっています。千葉市では第22週に1件の発生届があり、2019年の発生届累積数は27件となりました。性別では男性が74.1%(20名)、女性が25.9%(7名)となっており、年齢階級別では30歳代(33.3%:9名)、40歳代(29.6%:8名)、50歳代(14.8%:4名)の順で多く、30歳代~40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴では、無し又は不明が9割近くを占めています。

